

## 一体的整備を機に、地域課題の解決

図書館・美術館のハブを整備すると共に、街なかとの連携、市民参加のスキームを構築していくことで、ハードとソフト両軸での賑わいづくり、公民連携による魅力創造を可能としていく

**現状・課題**

**別府市の公共施設に対する基本的な考え方**

- 公共施設の今後30年にかかる総コストを30%削減
- 資産の保有から活用へと発想を転換、資産が生み出す価値や収益の方策が必要
- 既存施設を最大限有効活用

**図書館の現状**

- 蔵書数約21万冊、貸出図書数約30万冊
- 貸出密度2.4冊、登録率17.1%と低い※1
- 施設維持費に年間4,700万円※1
- 立地・規模に問題（駐車場不足、2階部分等）があり、市民が利用しづらい※2
- 司書資格人員が配置できていない

**美術館の現状**

- 来館数約1万人、施設収入約77万円、施設維持に年間約1,200万円※1
- 民間のアートイベントと密接な連携に至っておらず企画運営が可能な人材が不足※2
- 所蔵作品が少なく企画展などは難しい
- 近隣に大分県立美術館等、類似施設あり

**1. 経済 / 収益性**

- 公共施設の建設費、維持費を軽減するスキームをつくり、インシヤル/ランニングコストともに軽減するスキームをつくる。
- 地元資本を中心とした「民間活力」を導入し、**新たな魅力創造と同時にテナント収益/地代収益など、稼ぐ公共施設**を目指す。

**2. 面積規模**

- Lプラン21などを参考に新築の際の別府市の適正規模を算出。（Lプラン21に基づく面積は3,260㎡が基準）
- 一体的整備による施設割合は**図書館70~80%、美術館20~30%**を想定。美術館については既存施設を継続活用。

**3. 利便性**

- 市民が日常的に利用しやすい立地。
- 公共交通からの距離/アクセス性がよく、**市民だけでなく観光客も容易に利用できる。**
- 車の出入りが容易かつ駐車場用地を十分確保。

**4. 機能性**

- 従来の図書館/美術館機能だけでなく、**+αのスペース**として、街と連携した新たな機能を付加する。
- 既存美術館は引き続き活用。新たに必要となる機能を一体的に整備。

**5. 連携性**

- 別府に点在する街の魅力をつなぎ合わせ、さらに強化させる**ネットワークのハブ**として位置付ける。
- 周囲の自然環境や公園などとの調和や借景を得る。
- パブリックスペースとの連動性。
- 既存文化施設と連携し、**知の拠点としてエリアブランディング。**

**6. 新規性**

- 既存の図書館・美術館には**ない**新たなコンセプトとスキームを構築。
- 市民を**主体的**に巻き込む利用・運営プロセスをつくる。

※質的な機能及び管理運営については次年度以降の基本計画にて議論する

## ダイアグラム

